

社会医療法人社団 蛭水会
名戸ヶ谷病院

PACS システム導入で業務の効率化と大幅なコスト削減を実現

導入経緯

診療報酬改定を機に、将来の IT 化を見据えて「STELLAR」を導入

2008 年 3 月の診療報酬改定を機に PACS 導入を検討し始め、試算してみたところフィルム代として年間約 4 千万円の支出がありましたが画像に切り替えることによりフィルム代もかからず、総合的に収支と利便性の両面から考えても何ひとつマイナスになることはないかと判断し、PACS システムを導入することに決めました。

そこで、導入するなら一日でも早いほうがいいだろうと考え、早速メーカー 5 社競合でプレゼンテーションを開催し、現場で実際に使う医師やレントゲン技師などに、操作性や使い勝手・将来的な拡張性など多角的に検討し、選考、投票を行いました。導入する PACS の条件としては「画像と検査、両方行えるもの」を希望していましたが、プレゼンテーションを行った 5 社のうちこの条件を満たしたメーカーはアストロステージを含め 2 社のみでした。そして投票を行った結果「STELLAR」の評価が高く、一番多くの票を集めたアストロステージのシステムを採用することに決定いたしました。

その後、アストロステージの製品を導入している他施設へ見学に行き現場の話や聞き等、導入に向けて動きだしました。多少の価格交渉は行いましたが「価格よりも現場の使い勝手を優先し一日でも早い導入を」という経営者判断もあり発注から稼働まで約 1 ヶ月という異例の早さでの導入が実現いたしました。初めての PACS 導入だったこともあり過去データの移行はなく、スムーズに稼働まで進めることができました。

当院の方針である「理想形でスタートするのではなく利便性を考えて、まずはスタートしてみる。使いながら足りないものは後から追加していく、そしてより良い状態へ近づけていく」ということがスタッフ全員に浸透していたことも迅速な導入が実現できたひとつの要素となりました。

将来に向けて IT 化は不可欠であると考えています。カメラの世界がフィルムからデジタルに変わったように、医療の世界もフィルムからデジタルへ変わっていくのは当然の流れだと感じています。ただ、画像を見るだけではなく今後はオーダリングや電子カルテの構築も視野に入れていきたいと考えています。

導入システム

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- 診療情報統合システム **STELLAR**



名戸ヶ谷病院 DOCTOR CAR

導入効果

フィルムレス化で診断効率を大幅にアップし情報共有を可能に

当院では毎朝、前日に入院した患者様全員のフィルムを見ながらカンファレンスを行います。多い日には 20 名分の大量のフィルムをスタッフが運び、シャーカステンに一枚一枚、貼って剥がすの連続で、この作業のために最低 2 名のスタッフが必要でした。過去フィルムとの比較をする時などは特に大変で、例えば外来で診察した際のフィルムを見たい時は膨大な過去フィルムの中から探しだすために時間と手間を要していました。当時、一日 500 名くらいの外来患者様が来院されており混み合っているところに大量のフィルムを担ぎながら往來することも非効率でした。現在では外来患者数はさらに増え、一日 7、800 名程の患者様が来院されます。

このような状況ですので PACS システム導入により、フィルムの持ち運びがなくなり、画像検索や過去画像との比較が一瞬で可能になったことは大幅な業務効率化に繋がりました。また、以前は看護ステーション内にフィルム保管場所を設置していましたが画像に切り替えたことで膨大なフィルムの保管に場所をとられることもなくなり助かっています。2010 年には健診センターにもシステムを導入したことで、健診センターと本院との連携が可能になり、より総合的な患者情報の共有化に役立っています。

- STELLAR の導入によりフィルムレス化と共にコストや時間、労力の削減に成功
- 健診センターとの連携が可能に総合的な患者情報の共有化も実現

導入前の課題

- フィルムに掛かるコストの削減
- 患者情報の共有化

導入後の効果

名戸ヶ谷病院：システム導入時期 / Jun 2008



当院は昭和 58 年 5 月 1 日 138 床の救急病院として開院しました。柏市の中心部近くに位置しますが、周辺には緑が多く、夏には清らかな水が湧き出る泉のほとりで蝉が飛び交うような閑静な環境にあります。

昭和 61 年に 156 床に増床、昭和 63 年の増築で 204 床、平成 10 年の新館増築により 247 床となり現在に至っています。

当院は開院以来、【救急患者様は断らない】ということを経営の方針として地域の皆様のために努力してまいりました。出発点は救急病院でしたが、高齢者の救急患者様が增加している点や、当院はあくまで地域に密着した形の医療を行うという見地から予防医学や介護施設の必要性を痛感し、現在は本来の救急医療体制に加えて、健診・人間ドック部門の設置、訪問看護の実施や附属の診療所開設、老人保健施設や特別養護老人ホームの併設など、予防医学から社会福祉・介護までの全人的医療を目指しております。

所在地：千葉県柏市名戸ヶ谷 687-4

病床数：247 床

診療科：内科・循環器科・小児科・外科・整形外科・眼科・形成外科・脳神経外科
心臓血管外科・小児外科・皮膚科・麻酔科泌尿器科・放射線科・耳鼻咽喉科
人間ドック・リハビリテーション科

今後の方針

当院は「救急医療、急性期医療を使命と考え、救急患者はすべて受け入れます」という基本方針を掲げています。救急搬送の受け入れは一日平均 17 件、年間では 6000 件にものぼります。全国的に「急患のたらいまわし」が頻発し問題となっていますが、柏地区では救急医療を守るために当院だけでなく他の施設へシフトできる地域連携がとれているため、このようなたらいまわしはほとんどありません。

地域との距離を縮める工夫のひとつとして、自家用で高規格救急車「ドクターカー」を導入しています。ドクターカーは医師による緊急往診や他の医療機関への患者搬送、医師が同乗し簡単な手術まで行える「動く救急処置室」としての役割も担っています。

ハード面だけでなく一般を対象にした健康講座の開設や、病気だけを見るのではなく患者様の状態にあった治療法を考える患者目線を大切にしていきたいと考えています。これまでの地域の皆様のご理解とご支援に感謝し、今後も救急医療を中心とする急性期医療を担う病院として充実を図り、地域の皆様に愛され信頼されるように職員一同努力していきたいと思っております。

今後の期待・要望

障害や問い合わせなどには今まで同様に迅速で的確な対応をして頂きたいと思っております。

システム構成図

